

学校紹介

1～9年、義務教育学校スタート

飯館村立いいたて希望の里学園 吉川 武彦

令和2年4月、義務教育学校「いいたて希望の里学園」が開校しました。3月閉校の草野小・飯樋小・白石小、飯館中へのご支援に、改めて感謝申し上げますとともに、新生、義務教育学校につきましても、変わらぬご厚情・ご指導をお願いいたします。



開校式では、までの心を持ち気高く育て欲しい思いが込められた新校歌「孤高の星」(黛まどか作詞、南こうせつ作曲)と新校旗を披露しました。そして「夢ふくらませ 道を拓く ～自ら学ぶ力、認め合う心、健全な心身～」を新たな教育目標に、小中一貫の系統性・連続性を生かした教育課程のもとスタートしたところです。小・中学生の呼び名も1年生から9年生に統一、いわゆる1～6年生を前期課程、7～9年生を後期課程と呼んでいます。

なお、以下5点を重点に学校経営を進めています。

- ① 地域の期待と信頼に応える教育の具現
- ② 教育課程特例を生かした特色ある教育の実施
- ③ 少人数のよさや強みを生かした個に応じた指導
- ④ 学年をこえた交流と小中教職員の連携・協働
- ⑤ 飯館村唯一の学校としての自覚と貢献

具体的には、村の自然・文化・歴史・伝統を探究的に学ぶ「いいたて学」の新設、一部教科での教科担任制の導入、前・後期課程教員による乗り入れ授業の導入等です。手探りでスタートですが、柔軟性のある「いいたて」ならではの教育を目指しています。

新会員・再転入会員の声



「学校・家庭・地域」の「連携・協働」のもとに

南相馬市立大甕小学校 佐藤 伸洋

「おはようございます。」「交通指導、今日もありがとうございます。」「よろしく願います。」正門近くの横断歩道前に立っていると保護者の皆様や地域の皆様から明るく温かい声が届けられます。始業式及び入学式当日から子どもたちを大切に思う心に直接ふれ、お預かりする子どもたちの安全と安心を継続して確保する決意を新たにしています。

本校の校章は三枚の柏の葉(学校・家庭・地域)で大甕を包む形が図案化されています。中心の大甕は三者に温かく抱かれ見守られながら成長する児童を意味しています。社会に開かれた教育課程の実現のための素地が既に受け継がれてきています。子どもたちが地域のよさを実感しつつ根気強く学びに向かう中で成長できるよう、連携・協働した教育活動を進めてまいります。相馬地方校長会の諸先輩方のご指導ご助言をどうぞよろしくお願い申し上げます。



「よく学び 明るく 強く 元気よく」

南相馬市立鹿島小学校 草野 収

鹿島小学校へ二度目の赴任となりました。一度目は21年前、教諭として赴任し5年・6年と担任しました。当時の教え子が現在保護者になっており、入学式や朝の交通指導の際に声をかけてくれました。とてもうれしく感じるとともに、改めて身の引き締まる思いでした。

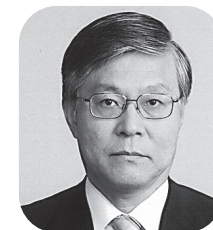
入学式は、新入生と保護者のみの参加でしたが、全員出席で行うことができました。4・5月は、臨時休業や分散登校でしたが、5月25日から学校が再開され、3密を避けながら、教室での学習や校庭での運動、栽培活動など、様々な教育活動を行うことができるようになりました。学校の教育目標「よく学び 明るく 強く 元気よく」何事にも積極的に行動する児童の育成をめざし、全力で学校経営に取り組みたいと思います。今後とも先輩方のご指導・ご助言をよろしくお願い申し上げます。

編集後記

30年ぶりに新地町の鹿狼山に登りました。頂に立ちますと、東には太平洋の大海原が広がり、地球は丸いのだと証明してくれました。西に目を向けますと、蛇行して流れる阿武隈川や遠く蔵王や吾妻の山々を望むことができました。瞬間、新型コロナ禍のモヤモヤがスーッと消えていくのを感じました。第131号発刊にあたり、玉稿をお寄せいただいた相双教育事務所長様をはじめ、諸先生方に厚く御礼申し上げます。



令和2年7月14日
相馬地方小学校長会
第131号
発行責任者 午 來 勝 顕
編集責任者 島 田 祥 司
発行所 ライト印刷



今できることをもう一度

福島県教育庁相双教育事務所長
佐藤 由弘

6月8日付ある新聞に「大阪・池田小児童殺傷事件「できることもう一度」～当時6年担任、校長に～安全へ思い新た」という記事があった。記事では「・・・事件から19年間、何度も胸に去来した後悔がある。血を付けながら児童の救命措置をする他の教員の手助けに行けなかった。「怖かったのでは。あのときの自分、逃げてたんちゃうん」。だからこそ、3度目の赴任で今できることを成し遂げたいとの思いを強める」とある。同校への勤務が3度目という、この校長先生の熱い思いを想像し、大きく心が揺り動かされた。

教員を長くやってきて、出会ってきたたくさん子どもたち。不登校だったTさん。反社会的な問題行動ばかりを繰り返していたSさん。重度の自閉症という障がいのあったYさん。震災直後、放射線の不安から不自由な学校生活を送らざるを得なかった、あのときの子どもたち。担任として、校長として、もっとしてあげられたことはなかったのか。子どもたちの顔が思い浮かぶ。新型コロナウイルス感染防止のため「新しい生活様式」のもとで学校が再開された今、子どもたちの学びを止めないために何をしなければならないのか。校長先生方も日々同じ思いだと思う。教育事務所でも、現場の先生方を支え、「今できることをもう一度」の思いから、「新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」に対応した『授業改善のすすめ』」を発信した。

県小学校長会「ふくしまの絆Ⅲ～我々がつなぐべき思いを～」の中にもある「疾風勁草」の言葉。尊敬する大先輩の大切な言葉でもある。今だからこそ、改めて心に刻み込んで仕事に当たりたい。



いつものように生活できること

相馬地方小学校長会長
午 來 勝 顕

「現在、学校は通常の授業を行っている。」前々号の原稿で私が書いた文である。今回は、新型コロナウイルス感染症対策に追われる中での原稿執筆となった。今回の会報が発行される頃には、今後の見通しが持てる状況であってほしいと願っている。

2020東京オリンピック開催予定だった今年、学校はたびたび教育活動を停止せざるを得ない状況に陥った。東日本大震災時にも、相双域内の学校はほとんどの教育活動を一時停止し、放射線量という目に見えない相手との戦いを展開してきた。今回はウイルスが相手である。

当時の教職員の兼務発令に対して、今回は在宅勤務や時差出勤、子どもたちの分散登校を実施。滞る教育活動を補うために教育課程を再編成、制限の多い中で授業を展開するための工夫。我が子が通常の学校生活を送れないことに不安を募らせる保護者への適切な対応。「今できることから少しずつ」。大震災時も、今も、同じ思いで苦慮し、通常の教育活動再開を目指して努力されている多くの校長先生方の姿を目にしている。

頻繁に訪れる通常の教育活動の危機。「いつものように」が通用しない時代が到来したと言える。今、私たち校長に求められているのは、「柔軟な思考力」と「臨機応変な判断力」であると考えている。

私は、東日本大震災や台風等による河川氾濫という困難な状況下での学校経営を経験してきた。そして、感染拡大の不安がぬぐえないままの現在。誰よりも、いつものように生活できることの幸せを痛感するとともに、学校にはいつも子どもたちの笑顔が広がってほしいと心から願う。

私の学校経営

「対話」を基盤とした 「温かみのある学校」づくり

相馬市立桜丘小学校 渡邊 義人

「3つの密」を回避しながら教育活動を進めることは、小学校では非常に難しいと痛感している。本校では、新型コロナウイルスから子どもたちを守るため、そして、先生方が安心して子どもたちの指導に専念できるよう、校長が中心となって、国・県・市のガイドラインを踏まえながら、大規模校である本校の実情にあった「予防マニュアル」を作成しているところである。

さて、私が学校経営の方針にしていることは、「温かみのある学校づくり」である。「温かみのある学校」にするためには、「対話」が大切であると考えている。互いの考えを伝えるとき、その理由や背景も伝え合うことで、互いの考えや思いを理解し合い、尊重し合う「対話」は「温かみのある学校」の基盤にある。このような「対話」を、児童同士、児童と教員、教



員同士、教員と保護者のよりよい関係づくりの際のツールとして活用することを広げていく。もちろん、校長自らから率先して、児童や教員との「対話」を大切にし、さらに、保護者とも様々な機会をとおして「対話」をし、面談も積極的に行って、私の学校経営方針を浸透させていきたい。

毎日のように問題が発生している。すべての教職員が「対話」を基盤とした「温かみのある学校」づくりの考えに立ちながら、様々な問題を解決していくことを期待している。

学校紹介

目指せ！説明名人

南相馬市立石神第一小学校 鈴木 克哉

本校は、明治6年深野小学校として創立され、これまで7,560名の卒業生を輩出し、各分野で活躍されている。現在児童数は59名だが、一番多かった昭和21年には882名在籍していた。

大正14年に同窓会が発足し、現在も物心両面にわたる援助を受けている。

昨年度までの3年間、ふくしま「学びのスタンダード」推進事業の指定を受け、「授業スタンダード」並びに「家庭学習スタンダード」を基に教員の指導力向上と授業改善に努め、大きな成果をあげることができた。

昨年度より相馬地方小学校教育研究会算数科会場校になり、これまでの成果と課題を踏まえ、研究主題「算数を学ぶ楽しさを味わう授業の創造」を設定し、研究・実践している。

子どもたちが「授業が楽しいと感じる時」とは、

「友だちに教えている時」、「話し合っって考えがまとまった時」、「自分の考えが評価された時」ということが分かってきた。

そこで、今年度は重点目標を「目指せ！説明名人」とし、算数科を始め他教科でも子どもの思考に寄り添った教師の関わりを重視しながら、○学び合いにより新しい考えを学ぶ。○みんなが最後まで思考する。○よりよい考えを見だし、まとめる。これらを視点として、数学的な見方・考え方を育てている。



随 想

一期一会のフィッシュ・オン

相馬市立八幡小学校 島田 祥司

若かった時分、私はオフロードバイクにまたがって、山奥へ溪流釣りによく出かけました。スタイルはルアーフィッシング。スピナーという疑似餌を投げれば引き、投げれば引き…滝壺に戯れ、水底の岩陰に潜んでいるイワナやヤマメを誘い出すことに明け暮れていました。フィッシュ・オン！釣れた魚は一期一会のキャッチ&リリース。記念写真を撮ったら自然に返しました。私ごときに騙され釣られてくやしそうな戦友たち。流れに開放されると水を得たとばかりに、満面の笑みを浮かべて神聖なめぐらへ消えていきました。その度ごとに、自然の恵に拝。



さて、芥川賞を受賞した開高健先生は、釣りの紀行も結構書いています。私はそれらの作品をむさぼり読んでいたうちに、溪流釣りの修行に心奪われていったのです。数冊の本との出会いが、魚たちとの魅惑の出会いをプレゼントしてくれたのです。これも一期一会の成せる業なのでしょう。



今はもう溪流に足を運んではいません。時々山に入って、段々の小滝が賑わう沢や深く蒼く佇むトロ場を見つけますと、「ああ、一生に二度と会うことがないあの旧友たちに、久しぶりに会ってみたいなあ」と思う『裸の王様』の自分がそこにいるのです。

Zoomで新しい学校生活様式を

南相馬市立高平小学校 杉内 律子

「これから、児童会総会を始めます。」

授業が再開されて2日目の昼休みに、教室の電子黒板からこのアナウンスが聞こえてきました。パソコンでZoomというアプリ機能を活用して、4年生以上が参加する児童会総会を、第二図書室で撮影し、各教室で見ながら開催したのです。

事の発端は、新型コロナウイルス感染対策です。学校は3月から臨時休校。学校が再開しても、○100人以上の集会を控える。○音楽は狭い空間での歌唱指導を行わない。○(小教研家庭科の研究校なのに)調理実習を実施しない。等々たくさんの制限があります。こんな中、少しでも子どもたちのためにできることは何かと考えていた時、南相馬市で配置していただいているICT支援員が変わるために、情報環境を調査するための来校がありました。情報教育で子どもたちにどんなことができるかを雑誌している時に、ふと、私の頭によぎったのが、今、ちまたで聞こえてくる「オンライン飲み会」。テレビ放送システムがない高平小学校で、1年生を全校生に紹介するのに、これを利用できないかを相談したところ、Zoomというアプリを活用すればできることを教えていただきました。

早速、学校にある旧型の数少ないiPadと教室のパソコンにインストールしていただいたのです。この素早さはさすがICT支援員と脱帽するばかりです。そして先生方へミニ研修。児童会担当へはZoomを活用した「1年生を迎える会」の再提案をしてもらい、その手始めに行ったのが冒頭の児童会総会です。もちろん「1年生を迎える会」も大成功を収めました。新しい生活様式が求められている中、新しい学校生活様式にもチャレンジしていかなければと考えております。

